

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3373800386		
法人名	社会福祉法人 千寿福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム百		
所在地	岡山県久米郡美咲町書副180-4		
自己評価作成日	平成27年3月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=3373800386-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート		
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO・会館		
訪問調査日	平成27年3月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御家族、御本人がどこよりも此処で暮らせて良かったと思っ頂けるケアを目指し人生の先輩である事を念頭に置き、言葉遣いにも配慮し今、この時を何より大切にと考え、利用者、職員間で気持ちの良い挨拶を交わし、いつも笑顔で接して笑いの絶えない空間作りを心掛け、利用者様中心に関わりをもって出来ることは御自分でして頂き、出来ないことは一緒に行い、自立した生活をして頂きたいと考えています。また、今年度も「ミズ・メシ・クソ・運動を中心に認知症の周辺症状の緩和に効果があると言われる、アロマテラピー(日中→ローズマリー・レモン 夜間→ラベンダー・オレンジ)などを取り入れ、裏庭を完成させ野外活動にも力を入れて、より御本人様らしい生活の確立を進めていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

9年経過した1棟の住民は設立当初から入所している人から近年に來られた人が混在して、重度化した人と比較的軽症の人が一緒に生活している。その中に絵の好きな男性が居て、その人が元気だった頃に油絵で描いた「婦人像」と彩色水墨画「松と雀」の絵画をリビングルームに飾っている。竹と木で作った杖で歩いていた。前面の庭は男性職員の手で整備され、ベンチを置き、利用者はリビングルームから自由に入りが出来るようになり、代る代る日向ぼっこと語り合いを楽しんでいる。2棟は3年前に増ユニットされ、比較的軽症の人が多く、リビングルームのテーブルやソファに座って、利用者同士で話をしたり、レクや手伝いをしながら楽しい生活をしている。2つのユニット同士で利用者と職員が交流しながら満足度を高め生活している。管理者は障害者支援を経験してきた男性と女性で両ユニットを担当して、お互いに協調して認知症ケアマネージメントの向上に努力している。

shita

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念を玄関に掲げ、ユニットの特性を活かし情報・意識の共有・統一を図り連携を強化し、出来る事はして頂きながら、いつも側に寄り添い、共感し、今、この時を大切に楽しく笑顔で自立した生活をして頂ける、ケアを心掛けている。	管理者は、理念の中でも、利用者に寄り添うケアに主眼をおき、人生の先輩としての尊厳を持った対応を職員間で共有している。職員は明るく、「○さん寒くない」等と常に個々に呼名しながら語りかけ、寄り添っている。「皆で仲よお、寄り添おていったらええ」と先導してくださる利用者が暖かい雰囲気誘っていた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域と離れた場所に位置している為地域の方との交流は少ないが隣接する施設とのつきあいも交流と考えて、さやか祭りや、歌声コンサート等の催しに参加し、楽しんで頂ける様、支援し2ユニットの特性を活かし、ユニット間の交流も地域ととらえている	ホームは、集落と遠隔地にあるので、地域とは、敷地内にある法人の関連施設(3施設)と2ユニットGHと捉えており、人事交流や互いの見守りあい、法人施設の催しに招かれる等の付き合いがある。お祭りやボランティアによる演奏会には招待され、利用者と職員が一緒にお付き合いを楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の運営推進協議会への参加や又、行事などへの地域の方の参加もあり、理解を得ていると考える。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームの活動状況を報告しケアにて困難事例の相談やアドバイスをケアに生かしている。町職員の参加もあり、年6回の開催を実施している	2カ月に1回、町職員、家族、1・2棟管理者が参加している。年間事業計画の中でテーマを決め、それに基づいた話し合いと、時々の情報交換や意見交換を行っている。参加家族から運営に関する質問やケアに対する要望が出され、サービス向上に活かしていることを会議録の中で確認した。	着実に2カ月に1回の会議を開催しているため、地域密着型サービスの意義を踏まえ、町内会長、民生委員、愛育委員等地域代表の参加を求めて、地域の理解と支援を得るために幅広くメンバーが関わられる工夫をしたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進協議会にも町職員の参加もありアドバイスを頂く等して関係を築いている	運営推進会議には毎回、町より2名の職員が参加しホームをよく理解してもらっているため、緊急の課題や些細なことでも相談しながら協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部講師を招いての身体拘束についての研修の実施や施設内研修等を行い、職員間での意識付けを行っている。	身体拘束に関する内部・外部の研修会に参加し、職員間で共通認識している。毎日、法人の施設構内を一巡する利用者に見印の帽子を着用させ、万全を期して送り出している1つの事例から、一人ひとりの思いを受けと止め、抑制しないケアのあり方を見ることができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会実施時、伝達簿の利用をし情報の共有化をしている。外部講師を招いての研修を実施、機会がある際には、情報を職員間で共有して、虐待が見過ごされることがない様、自分達にあてはまらないか、振り返り注意・防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去利用者様(退所者)には成年後見制度の在籍者もあり職員は概ね理解している。又研修にも参加にて資料あり		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所手続きの際は、説明の時間を設けている。改定時等は、重要事項説明書にて説明し同意を得る等、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会への家族の参加もあり、ご意見箱の設置や年度末には、家族交流会を実施し、利用者様の日常を見て頂く。ケアプラン更新時にも要望を伺い、運営に反映させている。	家族交流会を年1回開催し、ホームの実態を見てもらいながら意見交換を行っている。日常の暮らし方や行事などの写真を個人別のアルバムに貼り、居室に置き、来訪時に日常生活を紹介している。運営推進会議では家族からの要望により食事時間帯を改善してきたという事例がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、ケア会議、伝達簿など出来るだけ、職員が意見を言える機会、ツールを設けている。	管理者は、毎月の職員会議や担当制にしている職員から個別の情報や意見を積極的に受け入れる姿勢を持っており、様々なアイデアを講じている。リフトの設置やケアの改革等の意見を反映させ実現している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面会者や御家族より実績に対し労いの言葉を頂いた事を職員に伝えたり、管理者は研修で学んだ「誉める」を実践。職員の労を労らい就業意欲を高めてもらえる様、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外での研修を受ける機会を設け、日々の業務では、お互いに注意しあえる環境作りを念頭に働きながらケアの質の向上を目指している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設内外の研修、近隣施設と交流時などを利用しサービスの向上に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で利用するに当たり、生活歴、ご要望を伺い御本人・御家族の意向に添えるようなケアプラン作成に努め、サービスを提供するよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前の面接や、面会時を利用し御家族の思いを伺いケアプランを作成し更新時は、1表に御家族に直接希望を記入して頂き、状況変化時にはその都度御家族に報告し連携を図る		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族の要望を伺いながら状況に応じて代替えケアの可能性に付いても話し合いケアの向上に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今この一時を大切に出来る事はして頂きながら、職員と共に役割をもって、笑顔の絶えない楽しい自立した生活が出来る様、支援させて頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン作成時、面会時等の機会には利用者様の日常についての報告や状況変化時には、迅速な報告を心掛け、御家族と受診に行くなど要望に添えるよう、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、利用者様との信頼関係の構築を基本に、ご友人等の面会もあるが、施設入所で少し距離も出てきている為、職員との個人担当制を採用し、まず職員との馴染みの関係を構築し、安心して生活して頂ける様、心掛けています。	同一法人施設に定期的に訪れるボランティアと馴染んだり、行事に招待され利用者職員が参加して一緒に楽しむことで馴染みの関係が発展して行けるように、行事への参加を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者を理解し気の合う人同志の席を近づけたり困難な方には職員が関係を築ける様配慮している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者死去という形での終了の為、契約終了後、御家族と交流まではいかないが、他利用者様と、思い出話等の会話を通してご本人様をしのぶことあり。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向に添える様、御家族、面会者等からの情報収集や職員間の情報の共有、関係性の強化に努め、より深いアセスメントが出来る様、心掛けている。	管理者は介護職を兼務しながら利用者により日常的に接しており、担当職員と情報を共有し、思いや意向の把握に努めている。毎日3回法人の施設構内を散歩する一人の利用者に万全の安全対策を講じて、「気を付けてね」と送り出し、「ただいま」と笑顔で帰ってくる実態に出会った。リビングで過ごす利用者は明るい表情で思い思いに過ごしていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の面談や御家族へ経歴を尋ねたり利用者様との会話の中で把握に努めたりしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定時のバイタルチェックの実施、入浴時の全身観察を通して、身体状況把握に努め、体調管理を行い、変化時の早期発見につながる様、心掛けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人、御家族様の希望を伺いながら生活の質の向上につながるプラン作成を心掛け、特に御家族には職員に遠慮され「特にありません」と言われる事も多い為、プランを送る際、御家族の欄を白紙にして、御家族様の言葉で記入して頂ける様、試みている。	このホームの特長と言える「ケース記録」を基にして介護計画書を作成し、半年ごとに見直しを行っている。家族と職員の言葉上での遠慮を避けるため、家族意向欄には家族に直筆で記入してもらっている。家族の率直な思いを受け取れることや、家族の感謝の言葉は職員の働く意欲にもつながり、プランニングにもよく反映されるようになったと聞くことができた。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の日々の様子、状態の変化等の記録などにより情報の共有を図り見直しにつなげている。また、重要、緊急性のある情報は伝達簿への記入を行いより早く、職員間での共有が出来るよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様、御家族と連携を図り柔軟な対応を心掛け、出来る限りのご要望に添える様取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進協議会にて地域との交流に付いての検討をしたり避難訓練等の実施により安全な暮らしや訪問理美容等のサービスの利用をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関、御家族と連携を取りながらかかりつけ医との連携を築き、医療を受けられるよう支援する。又、受診結果の情報は受診ノートに記録し、緊急性のあること、薬の変更などは、伝達簿にも記入し、情報の共有が早く出来る様、心掛けている。	ホームが街の中心地から遠隔地にあるため、家族の便宜性の面で、家族の希望により入所と同時に全員が協力医を主治医としている。毎週1回の往診があり、障害者施設の往診日にも気軽に立ち寄って全員の顔を見て貰っているので、利用者、家族、職員共に安心できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常に利用者様の健康管理や状態の変化に応じられる支援を実施し協力医療機関による受診、1/Wの嘱託医による往診の他、週3~4回は様子を伺いに来所あり、また1/Wの訪問看護体制等を整えている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	主治医との連携を図り、病院も相談に応じて下さり早期の入退院も考慮して頂ける関係づくりを整えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療行為が必要でない場合は出来る限りここで暮らして頂ける様に重度化、看取りに対するマニュアルがあり、入所前の説明時や契約時に御家族には説明をしている	毎日の医療行為が必要になった時点でラインを引き、看取りのマニュアルにより職員間で意識の統一を図っている。今後も家族の希望があり、毎日の医療行為が発生しなければ、医療機関と連携を取りながら看取りを行う方針をもっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時に備えての勉強会(救急蘇生法)の実施やマニュアルあり		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網の作成や敷地内3施設合同訓練、隣接する施設との協力体制、消防団を交えての会議(協力体制、ライフライン断切時等)夜間職員1人体制の為、緊急時は勝手口から応援に来れる様、鍵を預ける相互連携、協力体制が出来ている。	ホームの置かれた環境を十分に考慮した諸々の対策を運営推進会議でもよく協議し、関係機関やユニット間の連携と協力体制を敷いている。ホーム内の転倒物への配慮や消防署の指導による安全対策を講じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさを尊重し、尊厳を守り、誇りやプライバシーを傷つけることのない言葉かけを心掛け、今この時を大切に楽しんで頂ける様支援している。	人生の大先輩としての尊重と尊厳を職員が共有認識し、行為の前に必ず「○○さん」と呼名し、丁寧な動作と言葉の対応を見ることができた。開設3年目の元気集団の「今この時を大切に」を合言葉に、一人ひとりに十分な配慮をしながら接していた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	楽しみや生き甲斐となるような役割を持って頂きその日の気分や体調に合わせて対応を実施		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先でなく、お一人お一人がその人らしく日々を暮らして頂ける様、個別支援を大切にコミュニケーションや声掛け、レクリエーションなど多く関わりを持って笑顔あふれる日々を暮らして頂ける様、心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時等衣類の選択や理美容院の利用時の希望等を伺いおしゃれ、衛生面の注意を図る		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は家庭でしている様に冷蔵庫の中のものでメニューを考え、利用者の方にも、食時前のテーブル拭き等の役割を持って頂き、1棟・2棟合同の食事会、外での食時や、旬の物の取り入れや、好みの物、希望物の購入や行事等に応じたメニューの提供を心掛けている	ホームで3食を調理している。調理担当者によって力の差があることは利用者もよく理解し、むしろ家庭的だと納得しているようだ。行事食は外注弁当で利用者と職員が同じものを食べて楽しみ、恒例行事の焼肉パーティーは食欲満開で楽しんでいる。普段、職員は手弁当を別室でとり、利用者の見守りに徹しているので、少し不自由な利用者もゆっくりと楽しんで食事ができている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「ミズ・メシ・クソ」を念頭に1日1500カロリー、1500CCを目標として、1日の摂取量をチェック表に記録し把握する。毎月の体重測定を参考に体調に応じ提供している。特に水分は不足しがちな為、季節に応じた温度の物、種類などにも配慮し、飲んで頂く様心掛けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア・就寝時の義歯消毒を実施し能力に応じたケアや歯科医による口腔ケアの実施		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により状態把握し個々にあった方法を考慮し対応し、下剤服用時や夜間のみ紙パンツ使用するなど御本人様の自尊心を大切に車椅子利用の方も、パットは使用しているが、トイレでの排泄を目指し、気持ちの良い暮らしができるよう支援している。	サービス担当者会議では、排泄記録を基本に、布パンツへの移行を目標に置き、一人ひとりに適した対応策を協議し、必要によっては介護プランに組み込んで継続支援に努めている。コントロールの必要な利用者には、医師や看護師に相談して対応している。夜間、昼間の対応の仕方には特に注意を払い、おむつの使用回数や布パンツに改善した事例を見ることができた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時の冷たい牛乳摂取や、入浴後のお茶提供、レク後にお茶を勧めるなど機会をとらえて声掛けし、水分をしっかりと摂取して、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	H24.11.1より業務変更となり毎日の入浴、夜間入浴は実施していないが、週3回入浴、入浴をされない方の全更衣・下清拭を実施し、リフト設置により、車椅子等の利用者様も、浴槽へ入浴可能となった。	車椅子利用者にも天上リフトを利用し、全員が湯船でゆっくりと楽しんでいる。浴室は明るく、並々とお湯が張られ、41度の温度設定で冬場は少し長めを希望される等、入浴を楽しんでいる。入浴拒否者はなく、全員が週3回入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良時等その時々に合わせて臥床したり、夜間眠れない利用者様には日中しっかり起きて頂く様声掛けし良眠につながる支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については個々のファイルを作成し、受診時や緊急時に使用し、変化時はその都度伝達簿を利用し申し送りにて理解している 又与薬ミスの無い様重複チェックの仕組みを実施		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝は、数人でおしゃべりしながら、洗濯物を畳んで頂いたり、それぞれの方の生き甲斐楽しみとなるような役割を持って頂いたり好きなテレビ番組を見たり、レクで歌やことわざカルタや、季節に応じた、折り紙を折って、掲示板を飾るなどして頂き気分転換を図る		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	重度化により、外出は困難な方も多いため、1棟2棟合同で外にテントを設置し、外での食時を楽しんで頂いたり、2棟の方では11月に紅葉がりに、御家族・職員と出掛けるなど支援している。又、庭の整備もほぼ完了になり、天候の良い日は庭に出てお茶を飲んだり、風に当たるなど、外での活動も取り入れていきたい。	ホームの周辺は、関連法人施設の広い敷地と、別法人の障害者施設が小高い山の自然の中にあり、良い季節には気軽に散歩ができる環境である。毎日3回に分けて施設内建物周辺を一人で散歩するという利用者にとって安全と気軽さが保証されている。年間事業計画の中に家族と一緒に遠出のドライブを楽しむ年1回の行事がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症の為、所持は困難だが個別対応にて購入希望により食材買い出し時に購入し、預かっている所持金よりの支払いもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在利用者様手紙を書く事はあまり無いが御家族の面会をよくあり遠方の御家族とは電話にて連絡をしている又会話困難者には職員が状況報告をしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ、入浴等、カーテン等で仕切りプライバシーにおいて十分な配慮を行う。又、季節ごとに行事(クリスマス会)等に参加したり、フロアに季節感(飾り・絵)を採りいれている。温度計に注意しながら、それぞれの場所(浴室、居室、ホール)で快適な空間が提供できるよう、空調管理を行っている。	2棟の3年目の新しさが際立つリビングには、2つの食卓テーブルと安定感のある大型ソファがテレビを中心に居心地よく配置されている。1棟の前面にある庭を職員の手で整備して、リビングルームから自由に入出入りしてベンチに座って日向ぼっこを楽しめるようになった。元気な利用者は自由に場所を選んで座り、利用者同士の会話が弾んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食後は、ソファ等でくつろいで頂くなど、お一人お一人に対し、ゆっくりとした空間の提供に努め、どうしても相性の悪い方達がトラブルにならないよう、席の配慮や職員が間に入るなど、予防に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	曾孫様の写真や予定を書き込むカレンダーの掲示をしたり、レク等で作成した作品を展示するなどしているご自分のタンスの持ち込み等あり	ベットと小型の箆笥が備え付けてあり、必要な人は家族が加湿器を持参で設置している。身体状況に合わせて手摺りやベットの位置で安全を配慮している。季節毎に衣類を入れ替え、担当職員と家族、利用者が一緒に部屋作りをしているというそれぞれの思いや工夫が随所に見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1日中居室対応者の方は、細やかな職員の訪室やホールで過ごす事が多い利用者様の方も職員とのコミュニケーションを第1にいつでも側にいるという安全・安心して頂ける環境づくりを心掛けている。		